

令和元年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク（研修） 実施要項

－地域共生型社会の実現を目指す職種横断的研修－

1. 目的（趣旨）

昨今の少子高齢化や人口減少の進展、核家族・単身世帯の増加など社会状況の変化に伴い、地域における社会的孤立や生活困窮、虐待などの深刻で多様な生活課題が顕在化しています。

このような中、国においては「地域共生社会」の実現に向け、社会福祉法改正をはじめとした介護保険制度や生活困窮者自立支援制度などの制度改革が行われ、社会福祉の大きな転換期を迎えています。

これらに共通する視点は、個人の生活を地域を基盤として支え、ネットワークの形成や社会資源の開発を含めて、地域づくりそのものを目指していくものであり、コミュニティソーシャルワークの考え方がこれからの社会福祉を実践するための基礎的な視点となっています。

また、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められます。

本研修では、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、様々な地域・生活課題への対応力を養い、円滑に課題解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶ機会として開催します。

2. 主催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会・富山県福祉カレッジ

3. 協力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

4. 後援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

5. 期日

(1)前期課程 令和元年 11月 13日(水)～ 14日(木)

(2)後期課程 令和元年 12月 2日(月)～ 3日(火)

6. 会場

パレブラン高志会館（3階 薫風の間）

富山市千歳町 1-3-1 Tel：076-441-2255

7. 参加対象者

- (1) 市町村社協職員（地域福祉推進部門の担当者、日常生活自立支援事業及び成年後見制度担当者、生活福祉資金貸付事業担当者 等）
- (2) 地域包括支援センター職員
- (3) 障害者相談支援機関職員
- (4) 生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員
- (5) 市町村行政において地域福祉及び地域福祉計画を担当する職員
- (6) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (7) 民生委員・児童委員
- (8) ケアネット活動リーダー
- (9) 介護支援専門員等
- (10) スクールソーシャルワーカー

8. 日程

【前期課程】

【1日目】11月13日（水）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30	開会・オリエンテーション	
9:40 (60分)	【講義①】 「地域共生社会政策時代の地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
10:40	休憩	
10:50 (80分)	【演習①】 事例報告 ～県内の4事例から～	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏
	事例① 滑川市社会福祉協議会 事務局次長 石川 優 氏	
	42歳のAさん。10年前に子どものBちゃん出産前後からうつ状態となり離婚。実家に戻るもうつ状態がよくなり、仕事も長続きしないことから借金を重ねる。自分の稼ぎだけでは足りず、実家で一緒に暮らしていた母親や祖母の年金を頼りに生活していたが、それでも足りず、母親、祖母の年金を担保にしたり、家を抵当にいたりして借金。親戚、友人、顔見知りというだけでも借金を繰り返す。現在も借金は一向に減らず、税金滞納も含め膨らむ一方。その上、Bちゃんが不登校となりひきこもっています。このようなお金と病気のため、世帯全体に悪循環が生じている事例について考えます。	
	事例② しみず社会福祉士事務所 代表 清水 剛志 氏	
	不登校状態で、小学6年生のAくん。転校を繰り返し、現在の小学校で3校目。Aくんが小学4年生のころ、自営業の父親Bさんが破産をし、自宅を売却。父親Bから母親Cに対するDVがあったという。その後転職して現在の会社に就職し、家族もともに社員寮で生活する。家族は、母親のCさん、兄のDくん(19)、弟のEくん小学1年生。Aくんは1校目の時から不登校、2校目でも同様。母親と兄が就職することを機に、父親と家族は別居し、父親以外の家族は母親の会社の社員寮に転居する。それに伴いAくんは現在の3校目に弟Eとともに転校する。このような複雑な課題を抱えた多問題家族への支援について考えます。	

	<p>事例③ 砺波市社会福祉協議会 地域福祉課主事 石田 翔太郎 氏</p> <p>持病のある5歳の長男と2人で暮らす20代のAさん。不安定な養育環境の中で育ち、15歳の時にパニック障害の診断を受ける。20歳で結婚し、子育てをしながら働いていたが、夫の借金やDVから精神的に不安定となり、躁うつ病を発症し離職、その後離婚。体調が回復したため、生活福祉資金を借り入れ就職活動を行う。就労意欲が高く、障害者雇用支援制度（チャレンジトレーニング事業、トライアル雇用制度）を利用しながら、生活再建に向けて取り組んでいた。しかし、長男の入院等により就労が思うように進まず、元夫からの金銭搾取もあり、うつ症状が悪化し、現在は自宅療養中。自立への意欲は高いものの、生活不安のある世帯に対する支援について考えます。</p>	
	<p>事例④ 社会福祉法人新川会 地域生活相談室 室長 野島 真裕美 氏</p> <p>知的障害のあるAさん。夫は4年前に亡くなり、長男Bさん、次男Cさんも知的障害があります。子どもたちが成人し障害年金や工賃などの収入を得るようになり、権利擁護の視点から、軽度のBさんは日常生活自立支援事業を利用し、重度のCさんは成年後見人が財産管理等をしています。また、Aさんは片付けができず、家の中は物が溢れ雑然とした状態のなかで暮らしています。Aさんの思いを受け止めながら、多問題を抱えるこのような家庭を地域全体で支えるための地域生活支援体制づくりについて考えます。</p>	
12:10	昼食・休憩	
13:10 (120分)	<p>【演習②】 事例検討（問題解決方針立案）</p> <p>事例に基づき、必要なアセスメント項目の確認や支援方針の立案を行う</p>	<p>大橋 謙策 氏</p> <p>富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏</p>
15:10	休憩	
15:20 (100分)	<p>【講義②】</p> <p>「コミュニティソーシャルワークの視点による個別課題アセスメント」</p> <p>個別アセスメントの視点と潜在的ニーズの把握のためのアセスメント手法を学ぶ</p>	大橋 謙策 氏
17:00	終了	

【2日目】11月14日（木）

時間	内容	講師等
9:30 (30分)	<p>【講義③】</p> <p>「ヴァルネラビリティのある人の発見」</p> <p>ヴァルネラビリティのある人の特性や発見の仕方について学ぶ</p>	<p>富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏</p>
10:00 (150分)	<p>【演習③ ロールプレイ】</p> <p>「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」</p> <p>自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ</p>	<p>大橋 謙策 氏</p> <p>富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 准教授 相山 馨 氏</p>
12:30	昼食・休憩	

13：30 (210分)	【演習④】コミュニティソーシャルワークの機能と実践 「(1) 問題発見アプローチシステムと資源開発」 地域においてヴァルネラビリティのある人を発見し、適切な相談支援へつなぐための仕組みづくりについて考える	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 准教授 相山 馨 氏
17：00	終了	

【後期課程】

【1日目】12月2日（月）

時間	内容	講師等
9：00	受付	
9：30	開会	
9：40 (150分)	【演習⑤】コミュニティソーシャルワークの機能と実践 「(2) 総合相談システム構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 福祉アクセシビリティが確保された相談支援システムの構築と本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークづくりについて考える	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏
12：10	昼食・休憩	
13：10 (230分)	【演習⑥】コミュニティソーシャルワークの機能と実践 「(3) コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発」 問題解決のために必要なプログラム（サービスが不足あるいはない場合には、新たなサービスを開発することも含め、対象・内容・プロセス・連携機関・役割分担・財源等）の開発について考える	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 准教授 相山 馨 氏
17：00	終了	
17：30	情報交換会	

【2日目】12月3日（火）

時間	内容	講師等
9：30～ (90分)	【プログラム発表】 演習⑥で作成した問題解決プログラムのグループ発表を行う	大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 准教授 相山 馨 氏
11：00～ (60分)	【総括】 振り返り・まとめ	大橋 謙策 氏

12:00	終了	
-------	----	--

9. 参加申込み

- (1) 申込期限 令和元年10月31日(木)
- (2) 申込方法 別紙「参加申込書」によりFAXまたはメールでお申込み下さい。
なお、開催要項及び参加申込書は、本会ホームページからダウンロードできます。[\(https://www.toyama-shakyo.or.jp/\)](https://www.toyama-shakyo.or.jp/)
FAX：076-432-6124 (地域福祉・ボランティア振興課)
Eメール：uozumi@wel.pref.toyama.jp

- (3) 参加費 5,000円

- (4) 情報交換会の開催について

後期課程1日目(12月2日)の研修終了後、情報交換会を開催しますので、是非ご参加ください。

情報交換会費 5,000円(※当日、受付でお支払いいただくこともできます。)

*飲酒される場合のお車でのご来場はご遠慮願います。

- (5) 参加費等のお支払い方法

11月6日(水)までに下記指定口座へお振込みください。

なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 No.1083785

口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

- (6) その他 申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。その際は、申込期限後、1週間以内にご連絡します。

10. その他

本研修課程の修了者には、別途本会が開催するコミュニティソーシャルワーク実践者フォローアップ講座の受講資格が得られます。

11. 問合せ先

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 [担当：魚住・古野・水井]

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL：076-432-2960 FAX：076-432-6124 E-mail：uozumi@wel.pref.toyama.jp